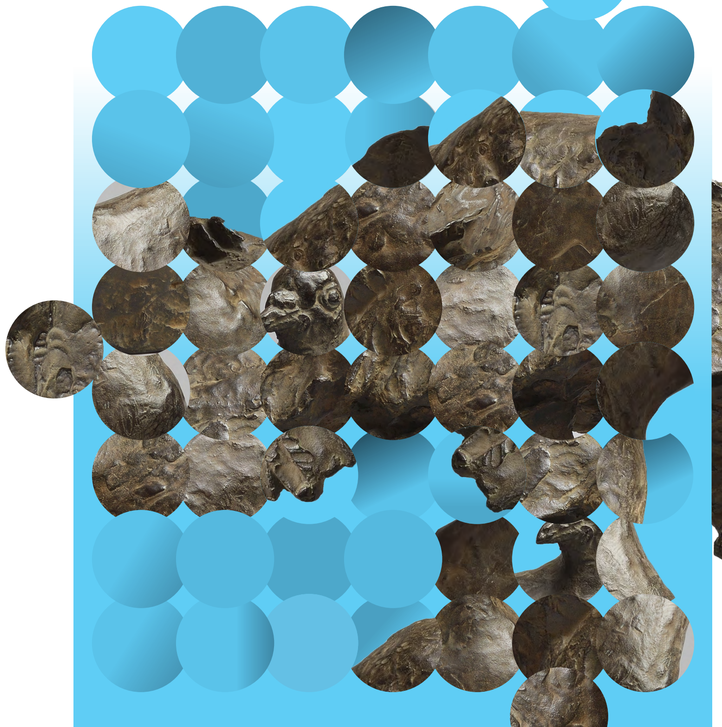
表紙の作品：《道標・鳩》1986 年

さわって楽しむ
柳原義達の作品



柳原義達（1910-2004 年）は、兵庫県神戸市出身の彫刻家です。最初は画家をめざしますが、美術雑誌でフランスの作家ブールデルの彫刻を知って感銘を受け、彫刻の道に進みました。東京で活躍し、戦後にはフランス留学を経験して、日本を代表する彫刻家と呼ばれるようになります。代表的な作品として人やカラスの彫刻が知られています。美術館では、作品を守るため、いつもは作品にふれて鑑賞することはできません。しかし、手でさわって鑑賞をすることによって、目で鑑賞するときとは異なる、新しい発見が得られることもあります。ここで展示する彫刻は、もともと作家が手で粘土にふれながら制作したものです。作品に手をあて、素材の温度や表面の凹凸、大きさを感じながら鑑賞することで、作家が手でかたちづくろうとしたものをより近く感じられるでしょう。 安全な鑑賞のため、さわるためには守っていただきたい約束があります。約束を守り、さわって鑑賞を楽しんでみましょう。

安全にさわるために

美術館にある作品は、新しいものにとり替えることのできない大切なものです。今ある作品を100年後も同じ状態で鑑賞できるよう、展示室では、みなさんに次のことをお願いしています。

汚さない　ーしみやさびを防ぐー

作品に汗や飲み物などの液体がかかると、しみやさびの原因になります。液体は作品の中にしみ込んだり、作品の表面を溶かしたりすることがあります。また、今はよく見えない手の汚れやあぶらも、長い時間をかけて作品にしみやさびを作ります。これを防ぐために、作品にさわる前には手の汗や汚れをふき、手をきれいにしなければなりません。

傷つけない　ー表面が削れてしまうかも…ー

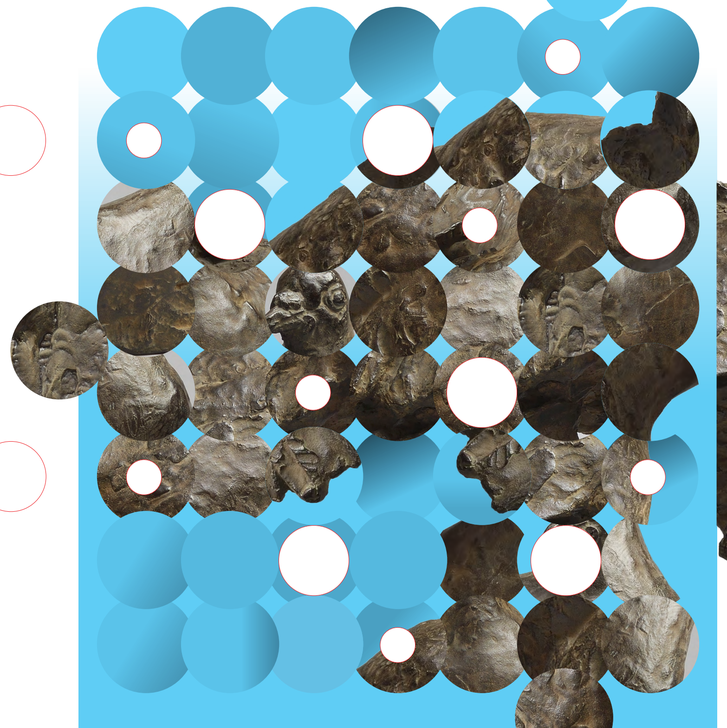
固くて丈夫にみえる素材も、くり返し固いものにぶつかったり、こすったりすると、細かい傷がつき、表面が削れます。一度削れたものは元に戻すことはできないため、さわるときはできるだけ傷をつけないよう、手のまわりの固いもの（指輪や腕時計など）は外す必要があります。作品をさわるときは、手のひらや指でやさしくゆっくりなでてください。

ぶつからない　ー人にも作品にも危険！ー

彫刻の作品に大きな衝撃が加わると、大きくへこんだり、割れたりします。特にブロンズ彫刻はとても重いため、倒れると人間にも危険が及びます。注意しているつもりでも、友人との会話や撮影に夢中になると、体がぶつかってしまうことがあります。展示室では周りに気を配るようにしてください。

表紙の作品：『道標・鳩』1986 年

さわって楽しむ
柳原義達の作品



柳原義達（1910-2004 年）は、兵庫県神戸市出身の彫刻家です。最初は画家をめざしますが、美術雑誌でフランスの作家ブールデルの彫刻を知って感銘を受け、彫刻の道に進みました。東京で活躍し、戦後にはフランス留学を経験して、日本を代表する彫刻家と呼ばれるようになります。代表的な作品として人やカラスの彫刻が知られています。美術館では、作品を守るため、いつもは作品にふれて鑑賞することはできません。しかし、手でさわって鑑賞をすることによって、目で鑑賞するときとは異なる、新しい発見が得られることもあります。ここで展示する彫刻は、もともと作家が手で粘土にふれながら制作したものです。作品に手をあて、素材の温度や表面の凹凸、大きさを感じながら鑑賞することで、作家が手でかたちづくろうとしたものをより近く感じられるでしょう。 安全な鑑賞のため、さわるためには守っていただきたい約束があります。約束を守り、さわって鑑賞を楽しんでみましょう。

安全にさわるために

美術館にある作品は、新しいものにとり替えることのできない大切なものです。今ある作品を100年後も同じ状態で鑑賞できるよう、展示室では、みなさんに次のことをお願いしています。

汚さない　ーしみやさびを防ぐー

作品に汗や飲み物などの液体がかかると、しみやさびの原因になります。液体は作品の中にしみ込んだり、作品の表面を溶かしたりすることがあります。また、今はよく見えない手の汚れやあぶらも、長い時間をかけて作品にしみやさびを作ります。これを防ぐために、作品にさわる前には手の汗や汚れをふき、手をきれいにしなければなりません。

傷つけない　ー表面が削れてしまうかも…ー

固くて丈夫にみえる素材も、くり返し固いものにぶつかったり、こすったりすると、細かい傷がつき、表面が削れます。一度削れたものは元に戻すことはできないため、さわるときはできるだけ傷をつけないよう、手のまわりの固いもの（指輪や腕時計など）は外す必要があります。作品をさわるときは、手のひらや指でやさしくゆっくりなでてください。

ぶつからない　ー人にも作品にも危険！ー

彫刻の作品に大きな衝撃が加わると、大きくへこんだり、割れたりします。特にブロンズ彫刻はとても重いため、倒れると人間にも危険が及びます。注意しているつもりでも、友人との会話や撮影に夢中になると、体がぶつかってしまうことがあります。展示室では周りに気を配るようにしてください。